

広報委員会作成

市PTA大会写真展作品

1 (へサバ式) 書大

季嶺四十二



広報委員会の皆様、東小の子どもの様子・取組みがよくわかる作品にさせていただき、ありがとうございます。

校長室だより

NO.14 平成28年11月30日

松原市立松原東小学校長 吉岡 英治

二十四節季 「大雪（たいせつ）」

12/7頃 十一月節 太陽視黄経 255 度

雪いよいよ降り重ねる折からなれば也（暦便覧）朝夕には池や川に氷を見るようになる。大地の霜柱を踏むのもこの頃から。山々は雪の衣を纏って冬の姿となる頃。

太陽視黄経0度が春分の日です。あと105度で春分の日に戻ります。今年は、雪のたよりが早く、季節の進みの早さを感じています。

今年もあと1ヶ月、次の年を迎えるためには、今年一年のふりかえりと一年の感謝込めての大そうじが待っています。

学校でも、2学期のまとめ、懇談会、終業式、大そうじとやりきることが、大切と考えています。



対人関係ストレスが、いろいろな状況の出現に係わることが、多く見られます。対人関係ストレスを決めるのは、相手への「期待」と「コミュニケーション」です。「やってほしいことをやってくれない、やってほしくないことをされてしまう。」ということで、ストレスとなってきます。コミュニケーションが十分とれていないと、期待そのものが適切でも、期待することがうまく伝わっていない場合も考えられます。また、コミュニケーションが十分とれていると、お互いの期待がずれていても、コミュニケーションによって、溝が埋めることができます。

問題行動や拒食症など病的状態も、自らのストレスを言語的に伝えられないことから重篤化していく場合があります。例えば、親から否定ばかりされて育ち、「自分をもっと認めてほしい」という感情が爆発して暴力をふるった場合に、暴力という行為に目を奪われて、ますます否定されてしまうと、認められたいという感情が解決できずに、問題行動が長引く場合もあります。特に、前にも書きましたが、感情の表現が大切になってきます。

キレる子どもたちに、注目が集まったことがありました。「キレる」は広辞苑によりますと、「我慢の限界に達し、理性的な対応ができなくなる」と有ります。些細なことをきっかけに、なぜキレるのだろうと思うこともあります。

表現されなかった感情が積もり積もって一触即発（前ギレ状態）にあれば、最後のきっかけはどんなことでもいいのです。「前ギレ状態」というのは、一見「普通の子」なので、普通の子がキレたとなってしまう。

その原因の一つには、今の子どもの心の容量が小さくなったという点も見られることがあります。心の容量を育てるためにも、質のよいコミュニケーションで、人を信じる力をつけることができるよう、保護者・地域・教師など身近な大人が手を携えて、子どもを育てていく重要性が増しています。 次回は コミュニケーションのポイント